



しゅ と けん  
首都圏  
げき しん  
激震!

# 興 関東大震災が発生!

1923年9月1日11時58分 マグニチュード7.9 (推定) 最大震度7

九州の宮崎に住んでいた武者小路実篤(38歳)。テレビもない時代、地震発生を知ったのは翌日だった。東京の実家に住む母、甥っ子や友達は無事か・・・?

1 宮崎を出発!  
混乱する東京に  
なかなかもどれない!!!



実篤：「僕は少しでも早く母に逢いたかったが、当時野次馬が東京に入るのを極端に用心していた当局は、許可のない者を上京させないという方針をとっていた。」

2 多くの人の  
手助けを受けて東京へ!

たまたま会った学生時代の友人が東京に入る許可を得る手助けをしてくれた。さらに、親友の志賀直哉の知り合いが付き添ってくれ、やっとの思いで東京に到着。



被害を受けた上野駅と、焼けた汽車

3 母や家の人は  
無事だった!!



母を実家から助け出してくれたのは、実篤の作品の読者たち!

4 実家の様子は・・・?

実篤：「元園町の家は完全に焼けていた。〔略〕僕が子どもの時、よく木登りして遊んだ大きな五葉松も、楓の木も、烏が巣をつくっ

た槇の木も、姿を完全に消していた。根元だけ残っていたが、以前の姿は想像も出来なかった。僕はたいして惜しい気はしなかった。この大震災はもっと恐ろしい結果を人々に与えていたから。家が焼けたことぐらいに未練を持つには現実がひどすぎた。」



河野通勢「麹町・武者小路邸焼け跡之園」1923(大正12)年 銅版画

引用は全て 武者小路実篤「一人の男」1971(昭和46)年9月より。写真は「関東大震災絵葉書」より。